

# 東っ子

日本一  
明るい  
東小学校

5月号

## 自然の食材

「夕方や吹くともなしに竹の秋」（永井荷風）  
地中でタケノコが太るちよ  
うど今の時期です。タケノ  
コに栄養分が回るため、地  
上の葉っぱは黄いばみ、竹  
にとつては秋の風情となり  
ます。



秋になると葉っぱは青々と茂るので、「竹の春」といいます。「竹の秋」は春の季語、「竹の春」は秋の季語です。  
私はタケノコが大好きで、煮物、和え物でタケノコが入っていると、そればかり選んで食べます。昔はあちこちにちよつとした竹藪があり、手軽に手に入る代物でしたが、今は山に行かないとなかなか穫れなくなつてしまいました。その山も所有者がなくなりますか

## 子どもの心

ら、勝手に獲るわけにはいきません。（スーパーで簡単に買えますが・・・）  
自然のものを手に入れるチャンスは本当に少なくなつてしまいました。

明治大学教授の諸富祥彦先生の話聞く機会がありました。「子どもの心を育てる」という話でした。三時間半の長い時間でしたが、内容が分かりやすい上にももしろく、あつと言う間に時間が過ぎてしまいました。  
諸富祥彦先生は、『子どもはなるようにしかならない』という基本的なとらえをしなから、①自己肯定感を持つる子ども、②他人を思いやる心を持つる子ども、③集団や社会に貢献しようとする



する心を持つる子ども、④畏敬の念を持つる子ども。こういう人間に育てるよう心がけながら、「喜怒哀楽を共有できる家庭」、「弱音を吐くことができる家庭」、「家族でスキンシップのある家庭」、「ごめんね・お願い・ありがとうと言える家庭」を築いてほしいと話しました。また親として子どもの友だちをきちんと注意できる、よその子を叱る姿勢を持つことの大切さも教えていただきました。



小学生の子どもといえども、一人の人格ですから、親も教員もそれをしっかりと心にとめて接することが大切だと思えます。もちろん子どもは大人より経験が不足していますから、失敗も多いのは当然です。その時、上から目線で注意や指導をしても子どもの心には響きません。本気であることが伝わるかどうか勝負の分かれ目です。  
その意味でも、「畏敬の念」が大切です。本気の大人は怖い、「自然にふれて」でも書きましたが自然等を敬う心を育てることが、今

## 上手になつたよ 〜三年リコーダー〜

小学校では、二年生までは鍵盤ハーモニカを使つて音楽の学習をしています。三年生になると楽器がリコーダーになります。  
そこで、外部から楽器指導の専門家の岩間先生を招いてリコーダー指導をしていただきました。



抱えきれないくらいはじまりのミニサイズから始まり、実際に演奏も披露しながらご指導いただきました。とて

## 東小探検隊

ろと知ってもらうために二年生が先導役となり、一年生と一緒に『学校探検』を行いました。  
様々な施設や設備のある小学校を探検しました。  
一年生は保育園や幼稚園との違いを体得し、二年生は優しい上級生ぶりを示す等、有意義な学習ができました。



## 児童総会 めざせ『日本一』

児童総会では、活動テーマ『日本一』や、「明るい笑顔日本一」、「思いやりの心日本一」、「きずなの輪を日本一」の具体目標やそれにかかわる取組等が承認されました。  
目標を達成すべく、児童会役員を中心全校で取り組んでください。そして、今まで築かれてきた東小学校の伝統も大切にしながら、「日本一明るい学校」づくりを目指してください。



平成30年5月18日（金）甲府市立東小学校だより

